

けんさの 知識

NO 1
発行元；検査科

血液のはなし

血液は、人の生命を維持する大切な役割を担っています。その組成は、大きく液体成分である血漿と有形成分である血球に分けられます。

【血漿】

血漿の約9割は水分で、残り1割程度がアルブミン、グロブリン、血液凝固因子などのタンパク質です。この他、無機塩類、糖質、脂質などが含まれます。働きは、細胞活動によりできた炭酸ガスを肺へ運んだり、栄養分を体内の各組織へ運び、そこで生じた代謝老廃物を腎臓から排出したり、血圧の保持に役立っています。

血球には、赤血球・白血球・血小板があります。

【赤血球】

赤血球は、血液の主な細胞成分で、酸素を肺から各組織へ運ぶ働きを持っています。

成人では、血液1 μ lに男子で約420~550万個、女子で約370~500万個です。

寿命は、骨髄で作られて脾臓で壊されるまで約120日間です。

【血小板】

血小板は、出血を止めるための重要な働きを持ちます。

極端に減少すると出血を起こしやすくなります。

血液1 μ lに約14~36万個です。

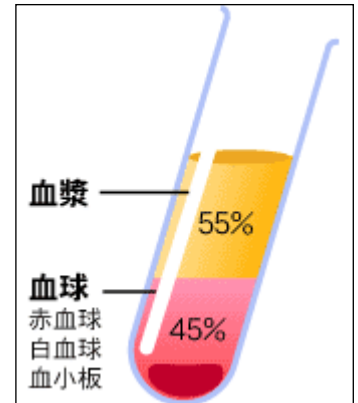
【白血球】

白血球は、細菌などを貪食し、免疫情報を伝達し、免疫機能により生体防御にかかわっています。

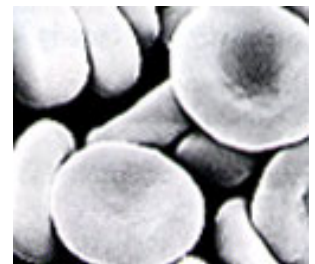
細菌感染症があると一般に白血球数は増加しますが、ウイルス感染症の場合はかえって減少することもあります。

成人では血液1 μ lに平均3500~9000個。

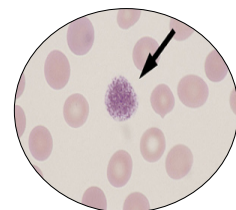
顆粒球、単球とリンパ球からなり、前者二つは骨髄で、後者は主としてリンパ組織で産生されます。



赤血球



血小板



白血球

